# 令和７（2025）年度

# 学習院大学大学院　博士前期課程（春期）

# 人文科学研究科・哲学専攻

# 入学試験問題

9：00～10：00　哲学史及び思想史
10：20～12：20　外国語原書読解
13：10～14：10　論文

※外国語原書読解の古典ラテン語は、選択者がいないため、
問題はありません。

2025年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 志望専攻 | 哲学専攻 | 受験番号 | | カナ<br>氏　名 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試験科目 | 外国語原書読解<br>（英語）<br>【試験時間】10:20～12:20 | 備考 | 問題用紙<br>（ 1 ）枚中（ 1 ）枚目 | | | 採点欄 | |

（1）以下の英文を和訳せよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

（2）以下の英文を和訳せよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

2025年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 志望専攻 | 哲学専攻 | 受験番号 | | カナ<br>氏　名 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試験科目 | 外国語原書読解<br>（英語）<br>【試験時間】10:20～12:20 | 備考 | 解答用紙<br>（ 1 ）枚中（ 1 ）枚目 | | | 採点欄 | |

2025年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 志望専攻 | 哲学専攻 | 受験番号 | | カナ<br>氏　名 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試験科目 | 外国語原書読解<br>（ドイツ語）<br>【試験時間】10:20～12:20 | 備考 | 問題用紙<br>（ 1 ）枚中（ 1 ）枚目 | | | 採点欄 | |

I.　次の下線部のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

II.　次の下線部のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

2025年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 志望専攻 | 哲学専攻 | 受験番号 | | カナ<br>氏　名 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試験科目 | 外国語原書読解<br>（ドイツ語）<br>【試験時間】10:20～12:20 | 備考 | 解答用紙<br>（ 1 ）枚中（ 1 ）枚目 | | | 採点欄 | |

2025年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 志望専攻 | 哲学専攻 | 受験番号 | | カナ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 氏　名 | |
| 試験科目 | 外国語原書読解<br>（フランス語）<br>【試験時間】10:20～12:20 | 備考 | 問題用紙<br>（1）枚中（1）枚目 | | | 採点欄 | |

1　下線部を日本語に訳しなさい

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

2　下線部を日本語に訳しなさい

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

2025年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 志望専攻 | 哲学専攻 | 受験番号 | | カナ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 氏　名 | |
| 試験科 | 外国語原書読解<br>（フランス語）<br>【試験時間】10:20～12:20 | 備考 | 解答用紙<br>（1）枚中（1）枚目 | | | 採点欄 | |

1

2

2025年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 志望専攻 | 哲学専攻 | 受験番号 | | カナ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 氏　名 | |
| 試験科目 | 外国語原書読解<br>（古典ギリシア語）<br>【試験時間】10:20～12:20 | 備考 | 問題用紙<br>（　1　）枚中（　1　）枚目 | | | 採点欄 | |

Ⅰ．次の全文を和訳しなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

Ⅱ．次の全文を和訳しなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

2025年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 志望研究科 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 志望専攻 | 哲学専攻 | 受験番号 | | カナ<br>氏　名 | |
| 試験科目 | 外国語原書読解<br>（古典ギリシア語）<br>【試験時間】10:20～12:20 | 備考 | 解答用紙<br>（　1　）枚中（　1　）枚目 | | | 採点欄 | |

二〇二五年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 人文科学研究科 博士前期課程 |
|---|---|
| 志望専攻 | 哲学専攻 |
| 受験番号 | |
| 氏名 | 漢字 / カナ |
| 採点欄 | |

| 試験科目 | 外国語原書読解（漢文）【試験時間】十時二〇分～十二時二〇分 |
|---|---|
| 備考 | 問題用紙（一）枚中（一）枚目 |

問一　次の文章を読んで、全文の解釈（現代語訳）を書きなさい。

誠禪定一門、最爲高勝。先以十分之會、擧、次轉二半之證一來、只在此法。拈花破顏、禮拜得髓、皆承他之恩力、而獲大自在者也。學般若菩薩、詎不隨順者乎。嘗觀超凡越聖、必假靜緣。坐脫立亡、能任定力。況復指竿針鎚之轉機、拂拳棒喝之證契、未是思量分別之所能解也、豈爲神通修證之所能知也。可爲聲色之外威儀、那非知見之前軌則者歟。然則不論上智下愚、莫簡利人鈍者。放下六根、見轉全道。不生一念、坐斷十方。

問二　次の文章を読んで、全文の解釈（現代語訳）を書きなさい。

圓頓者。初緣實相造境即中無不眞實。緣法界一念法界。一色一香無非中道。己界及佛界衆生界亦然。陰入皆如無苦可捨。無明塵勞卽是菩提無集可斷。邪皆中正無道可修。生死卽涅槃無滅可證。無苦無集故無世間。無道無滅故無出世間。純一實相。實相外更無別法。

二〇二五年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 試験科目 | 志望研究科 |
| --- | --- |
| 外国語原書読解（漢文）<br>【試験時間】十時二〇分～十二時二〇分 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 |
| 備考 | 志望専攻 |
| （　一　）枚中（　一　）枚目<br>解答用紙 | 哲学専攻 |
| 採点欄 | 受験番号 |
| | 氏名<br>漢字　カナ |

二〇二五年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 志望専攻 | 試験科目 | 備考 | 受験番号 | 氏名（カナ） | 採点欄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人文科学研究科 博士前期課程 | 哲学専攻 | 外国語原書読解（日本語）【試験時間】十時二〇分～十二時二〇分 | 問題用紙（二）枚中（一）枚目 | | | |

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

我々は自分自身の身体について、全体として我がものであるという感覚を持っている。こうした身体は、私が「見る」ものではなく、直接的に私がそれで「ある」ところのものである。私の目は外へと向かっている。身体は、私が無差別な外的空間を統一的な状況空間として形成するときの観点であり、行動の中心である。その意味において身体は主体である。だが他方、身体は空間の中で位置を占め、目に見える物体である。その点では身体は客体である。身体は主体と客体との二重性格を持っている。

しかし、以上のように身体の二重性格を特徴づけるだけでは不十分であり、これだけでは習慣と身体の関係も明らかにならないであろう。〝身体は私が直接的にこれを生きる場合には主体であり、目に見える物体である場合には客体である〟――こうした言い方は、〝私の身体は私にとっては主体であり、他者にとっては客体である〟と言うに等しく、身体を別の観点から捉えて特徴づけているのである。

たしかに身体は主体と客体の二重性格を持つ。だがそれは直ちに「身体は主体であると同時に客体である」ことを意味しない。そして実際、論理的な次元で考える限り、主体と客体が「同じ」であることはないであろう。身体の主体としてのあり方と客体としてのあり方、この二つを論理的に結合することは不可能である。両者の結合が考えられるとすれば、私の「生きる」次元、私がそれで「ある」ところの主体としての身体の次元においてすでに客体としての身体が感じられているという形でしかありえないであろう。その場合、身体の二重性格は、主体 - 客体の図式でよりも、むしろ私 - 他の図式で考える方が適当であるように思われる。私の身体が客体と感じられるとき、その身体は主体にとってもはや「他」である。客体としての身体をも私が「生きる」ものだとすれば、それは私が私の内に「他」を持つことなのだ。繰り返すが、この私と他の一致も論理的なものではなく、〝私において他を感じ、他において私を感ずる〟という情態的な一致なのである。〈意味〉というあいまいな概念を導入せざるをえない理由もここにある。主体と客体、私と他の統一があるとすれば、それは意味的な統一であり、そうした意味的統一の中で私は私自身に他を感じ、他の内に私を感ずるのである。

以上のことを念頭に置いた上で身体の二重性格を捉え直してみよう。さきほど、私の目が身体の外へと向かっているときに身体が我がものと感じられると言った。私が無差別な空間を一つの意味によって統一された状況空間とするとき、身体は意識せずに何らかのしぐさをしており、そのしぐさは、私が外的空間に与えたと同じ意味によって統一されている。例えば、私が机に向かって仕事をしているとき、机の周辺はそこで仕事をすべき空間として状況化されるのだが、このつとめに向う中で、私の身体のしぐさも有意味な統一を得る。私が我がものと感じている身体のしぐさの意味と状況となった外的空間とのあいだには意味の一致がある。この意味の一致があるからこそ、外的空間は私に親しいものとして感じられるのである。仕事をしているとき、私は机の周辺を「見て」いるのでなく、ここに「住まって」いる。その空間は、意識せずとも私が自由に利用できる空間として「我がものとなった」空間である。身体が我がものとして感じられるとき、皮膚で限られたこの身体空間のみならず、常に身体の周辺を含むのである。こうしたことが可能になるというのも、私の身体が空間の中で位置を占め、外的空間との連続性を持っているからだ。意味付与する主体が世界から距離をとった存在者だとすれば（「意識」を〝世界からの距離〟によって特徴づけるとすればその意識にとって）、外的世界は常によそよそしいものとして感じられるであろう。近代的な認識主観の立場で「主体」と言うときこの主体にとって外界がいかにしてその実在性を得るかという問いが立てられる。だが身体を主体と考える場合、身体はすでに外界の中にあるものであるがゆえに、この主体はすでに外界を含みこんでいる。つまり外界に属するところの身体を主体と考えることによって外界が主体化されるのだ。もちろん

二〇二五年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 志望研究科 | 志望専攻 | 受験番号 | 氏名（カナ） |
|---|---|---|---|
| 人文科学研究科 博士前期課程 | 哲学専攻 | | |

| 試験科目 | 備考 | 採点欄 |
|---|---|---|
| 外国語原書読解（日本語）【試験時間】十時二〇分～十二時二〇分 | 問題用紙（二）枚中（二）枚目 | |

これもあくまで意味的な関係からの表現である。「外界の主体化」とは、身体が外界に住まうことにより、外界が主体の付与した意味によって満たされるということである。

「外界の主体化」に相関して、「主体の外化」ないし「疎外」も考えられるであろう。主体の付与した意味は外界に沈澱し、〝即自的に〟存在するように見えてくるのだ。使い慣れた机の周辺には「仕事場」としての意味が沈澱し、私が机に向かうとき、机の周辺から意味を〝受けとる〟ように感ずる。習慣の現象が説明されるのも、この「沈澱した意味」によってなのだ。これについてもう少し突っ込んで考えてみよう。

今、沈澱した意味が〝即自的に〟に存在するように見えると言ったのだが、それは事物がそこにあるような形で〝即自的に〟存在するのではない。(1)事物は目に見えるが、この意味は目に見えない。私は沈澱した意味を「見る」のではなく、「身体で感ずる」のである。(2)さらに、誰でもがこの意味を感ずるのではない。赤の他人が私の机を見ても、そこから私の感じるような意味を受けとることはない。外界に沈澱した意味を受けとるのは、すでにその意味を潜在的に所有している人だけなのだ。(3)身体にこの意味を所有している人は、これと一致した、周辺に沈澱した意味を〝否応なく〟受けとる。ここでは意味を「付与する」という性格は消失し、私は意味によって拘束されているのだ。いわば意味の「疎外」がある。意味は私にとって他となっており、私はもはやそこから自由でない。

【問い】筆者は身体をどのようなものとして捉えているか。論述から読み取り、自分の言葉で述べなさい。「主体化」と「疎外」という語のこの論述における意味の説明を必ず入れること。

※解答は「解答用紙」に記入すること。

出典：片山 洋之介　「日常と偶然」

二〇二五年度　学習院大学大学院　人文科学研究科　春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

| 試験科目 | 志望研究科 | 志望専攻 |
| --- | --- | --- |
| 外国語原書読解（日本語）<br>【試験時間】十時二〇分～十二時二〇分 | 人文科学研究科<br>博士前期課程 | 哲学専攻 |

| 備考 | 受験番号 | 氏名 |
| --- | --- | --- |
| 解答用紙<br>（　一　）枚中（　一　）枚目 | | カナ |

| 採点欄 |
| --- |
| |